

# 中国朝鮮族の移動と生活

## —— 日本在住の朝鮮族へのアンケート調査から ——

宮 島 美 花

1. はじめに
2. 回答者の基本事項
3. 移動先(日本)と送り出し地(ホームランド)をつなぐネットワーク
4. 日本のなかの朝鮮族社会
5. 民族関係, および言語について
6. 今後予定
7. むすびにかえて

### 1. はじめに

#### 1.1 研究目的, 問題意識

本稿は、日本に暮らす中国朝鮮族に対して行ったアンケート調査を用いて、彼らの移動と生活について明らかにしようとするものである。国際移住機関(IOM) 報告によると、かつての移動は、主に、移動先への永住を前提・目的とした一回限りの一方向のものであった。しかし、今日ではそのような移動は主流ではなくなり、今日の国際移動は、反復的で、双方向・多方向の傾向を顕著に示している<sup>1)</sup>。交通・通信手段が発達し、移動によって家族が分散して暮らしていても、相互の連絡は密になされ、相互往来も頻繁になされるなど、遠距離かつ越境的な家族の紐帯が再構成されている。中国朝鮮族は、そうした双方

---

1) IOM (International Organization for Migration), 2006, *IOM policy brief July 2006 : Integration in today's mobile world.*

向・多方向の移動と、それがほとんど必然的にもたらず家族分散と家族再構成の特徴をアジア地域で典型的に兼ね備えている集団のひとつである。

中国朝鮮族（以下、朝鮮族と略す）とは、中国の少数民族のひとつとして中国国籍を持ち、主に中国の東北地方に集住してきた約200万人のコリアンであり、そのうち約80万人は、彼らの民族自治区域である吉林省東端の延辺朝鮮族自治州に集住してきた。彼らは、1990年代以降、中国の東北地方から、北京や上海など国内大都市や海外へ活発に移動するようになってきている。彼らの海外への移動は、主として中韓国交樹立（1992年）に伴う韓国への出稼ぎ、次いで日本の留学生受入拡大政策（1990年）に端を発する日本への留学・就学、ソ連崩壊を契機としたロシアへの生活雑貨の行商が多い（金・浅野 2012, pp. 53-54）。

韓国に次ぐ移動先である日本には、推定5万人から10万人の朝鮮族が移動し暮らしているとされるが、これらの数字は推定の域を出ない<sup>2)</sup>日本の法務省が管理する外国人登録者には民族別の記載がなく、従って、日本入国・日本滞在に関するデータから、中国国籍者のうち、朝鮮族だけを取り出して把握することができないためである。

日本での日常生活において、彼らは、ただ「中国人」として生活している場合も少なくない。日本社会における彼らは、ときに、「中国人」一般のなかに埋没している。そこで、本稿では、日本に暮らす朝鮮族に対して独自のアンケート調査を行い、彼らの移動と生活を把握しようと試みる。朝鮮族の移動と生活を明らかにする事例研究を行うことを通じて、具体的に明らかになることとしては、①移動のありよう、移動後の（＝移動先での）暮らしのありよう、②移動者と移動元・移動先社会との関係、③移動者が日常生活のなかで抱えている諸問題、言い換えれば、移動者・移民の側が甘受している、国家や自治体が現状の制度のなかではカバーしきれない諸課題、などが想定される。事例研究を通じて、国際社会を構成する基本単位とされてきた国家を跨いで生きること

---

2) 朴浩烈（「中国朝鮮族の言語相」『多摩大学研究紀要「経営・情報研究」』No. 17, 2013年）の整理によると、日本在住の朝鮮族は「5万人前後」（『朝日新聞』2010年2月12日）から「約10万人」（『朝鮮新報』2012年11月7日）と伝えられている。

の難しさが改めて浮かび上がり、それと同時に、そうした困難を乗り越えて日常を生きる移動者・移民の工夫が明らかになると考える。

## 1.2 調査概要

本稿は、2015年2月に行ったアンケート調査を用いて、彼らの移動と生活について明らかにしようとするものであるが、今回の調査結果を検討する際には、筆者が、日本に暮らす朝鮮族に対して行った過去2回のアンケート調査の結果と対照しつつ検討を行う。

過去に行った2回のアンケート調査とは、以下のとおりである。まず、初回の調査（共同調査）は、2001年に関東地方で実施し、サンプル数は120名であった。この調査は、権香淑・宮島美花・谷川雄一郎・李東哲「在日本中国朝鮮族実態調査に関する報告」（権ほか2006）として刊行されているので、全容についてはそれを参照されたい。2つめの調査は、筆者が2012年に関西地方で実施し、サンプル数は48名であった。この調査については、宮島美花「移動を説明する諸理論と、中国朝鮮族の移動・生活－日本在住の朝鮮族の事例から－」（宮島2015）に掲載されている。2001年調査と2012年調査の調査票は基本的に同じものを用いたが、2001年調査では日本滞在年数を質問する項目を設けなかったことが大きな反省点の一つであったので、2012年調査では質問項目にそれを含めた。

今回の調査は、2015年2月から4月にかけて、関西地方在住の朝鮮族に対して実施し、33名の回答を得た。調査は、大阪在住の朝鮮族1名に調査補助者になっていただき、以下の通りに行った。まず、①大阪朝鮮族新年会（2015年2月21日、於：大阪）の会場で参加者19名に、②大阪朝鮮族花見バーベキュー・パーティ（2015年4月12日、於：大阪）の会場で7名に、調査票を配布し実施・回収した。新年会の主催団体は、関西朝鮮族友好会という関西地方在住の朝鮮族の親睦団体である。次に、③関西地方の大学で教鞭をとられているT先生（日本人）の指導学生たちが催すパーティ（2015年4月18日、於：大阪）にうかがい、4名に調査票を配布し、実施・回収した。T先生の研究室には朝鮮族の学生が多く、このパーティは、T研究室の卒業生・在学生たちが

家族も伴って集まる、年に1回の機会となっている。最後に、④関西地方在住の3名に、個人的なついでで回答を依頼し、Eメールに添付する形式で調査票を配布し回収した。このようにして、2015年4月18日までに合計33名から回答を得た。

調査票は本稿末に添付資料として付したとおりである。2001年調査・2012年調査と同じ質問もしているが、今回は多くの新しい質問項目も設けた。新しく設けた質問は、来日年度（最初に日本に来た年）、婚姻状況、現在の在留資格、来日時の在留資格などである。反省点として、質問項目がかなり多く、記入方式も複雑であるため、とりわけ、新年会やパーティの機会にその場で全て正確に記入してもらうのは難しく、欠損値が発生する結果となった。また、実施前には50名程度からの回答回収を目標としていたが、実際に回収できたのは33名にとどまった。調査票を受け取っても回答記入を行わないケースも見られ、これは実施してみて痛感したことであるが、質問項目が多く複雑であるため、受け取った調査票を一見しただけで、うんざりしてしまい、回答を躊躇するのも無理はないと反省させられた。調査を実施する研究者の側は、せっかくの機会なので、あれもこれもと欲張りになりがちである。しかし、調査される側の都合を考慮して、回答の負担が少ない調査票を準備することも重要な留意点である。今回の反省点を今後活かしていきたい。あわせて、今回のような負担の大きな調査票に回答してくれた33名の朝鮮族たちに、お詫びと心からの感謝を表したい。なお、サンプル総数が33名と少ないため、今回の調査結果は実数で整理を行い、各割合（パーセンテージ）は示さなかった。

今回の調査を取り扱う際には、2001年調査・2012年調査と同様に、調査方法およびサンプルの代表性について留意しなくてはならないが、この問題については、2012年調査の結果（宮島2015）をまとめた際に言及したので、ここでは繰り返さない。また、合計3回の調査は、1回を関東地方で、2・3回目を関西地方で行っているが、地方別の朝鮮族の特徴を見出すことは困難である。ただし、1回と2・3回の間にある、調査時期の差異（1回は2001年で、10年を置いて2回目は2012年、3回目は2015年）は大きいと思われる。

## 2. 回答者の基本事項

まず、今回の調査票に回答してくれた朝鮮族 33 名は、どのような人々であったのか、基本事項を整理しておく。表 1 から表 3 は、それぞれ、性別、出生地、年齢に関する設問の結果を整理したものである。表 1 を見ると、33 名のうち女性が 23 名であり、今回の回答者には女性が多い。出生地は吉林省が 33 名中 18 名である（表 2）。年齢層は、30 代が 33 名中 16 名であり、次いで 40 代が 8 名である（表 3）。

表 1 性別 (Q 6-1)

	男 性	女 性	欠損値	総 計
人 数	8	23	2	33

表 2 出生地 (Q 6-2)

	吉林省	遼寧省	黒龍江省	欠損値	総 計
人 数	18	11	2	2	33

表 3 年齢 (Q 6-3)

年 齢	人 数
20～29	5
30～39	16
40～49	8
50～59	1
欠損値	3
合 計	33

表 4 によると、はじめて来日した年は、1990 年代後半（1995～1999 年）が 33 名中 11 名、2000 年代前半（2000～2004 年）が 33 名中 12 名である。これと関連して、日本滞在年数は、「10 年以上～15 年未満」が 11 名、「15 年以上～20 年未満」が 11 名である（表 5）。つまり日本滞在年数が 10 年から 20 年

未満の者が33名中22名を占めている。

表6を見ると、来日の経緯について、「友人・知人の紹介」と回答している人が33名中17名である。2001年調査・2012年調査においても、来日経緯は「知人・友人・親戚の紹介」が多かった（2001年調査で48.3%（サンプル数120）、2012年調査では60.4%（サンプル数48））。今回の回答者は、特に、1990年代後半以降に、「友人・知人の紹介」で来日したものが多く整理できるが、その背景として考えられるのは、1996年の保証人制度改定である。日本への留学の大きな障害だった入国・在留のための身元保証人制度が、1996年12月に廃止され、1997年4月以降の留学生および就学生に適用されるようになった。外務省が日本留学に関する情報を提供するウェブサイト「日本留学総合留学ガイド（Study in JAPAN）」では、「1996年12月に入国・在留のための身元保証人制度が廃止され、日本留学のための入国にあたって、身元保証人は必要ではなくなりました」と説明したあと、しかし、「アパートを借りる時や、大学・専修学校の受験、入学の手続きをする時」など「日本における生活においてははまだ必要な場面も多いのです（これらは、日本人学生にも要求されます）」、「日本留学を希望するなら、来日後の身元保証人について来日前に入学先によく確認しておいた方がよいでしょう。例えば日本語学校に入学する場合、在学中については学校が保証人を引き受ける場合があります」等と補足説明している<sup>3)</sup> 保証人制度の改正以降、朝鮮族は日本人で保証人になってくれる人がいなくても、様々なネットワークを利用して来日することが可能になった。以下は、2001年の調査の際に、筆者が行った、20代の留学生（当時）へのインタビューである。

以前、日本留学は難しくて無理でした。日本人の保証人を見つけなくてはいけなかったし。親戚が日本にいたけれど、日本人の知り合いはいなかったの。それが、97年に、日本人保証人制度がなくなったと日本にいる親戚が教えてくれたんです。それなら可能性が高いと思い、当時は収

---

3) URL : <http://www.studyjapan.go.jp> (アクセス日 : 2015. 01. 19)

入はよくて貯金もあったので、決意しました。親戚に日本語学校の書類を送ってもらいました。日本にいる親戚が保証人になってくれたので、1回目の申請で日本語学校に合格できたんだろうと思います。この点、親戚にはすごく感謝してるんです。来日後の住まいも親戚に保証人になってもらって、決めました。(権ほか2006, p. 195)

表4 (はじめて) 来日した年 (Q 1-1)

来日した年	人 数
1990～1994	1
1995～1999	11
2000～2004	12
2004～2009	5
2010～2014	4
合 計	33

表5 日本滞在年数 (Q 1-2)

来日年数	人 数
1年未満	1
1年以上～5年未満	3
5年以上～10年未満	4
10年以上～15年未満	11
15年以上～20年未満	11
20年以上～25年未満	1
欠損値	2
合 計	33

表6 来日の経緯 (Q 1-5)

	友人・知人の紹介	業者の斡旋	会社の招聘	その他	欠損値	総 計
人数	17	9	2	4	1	33

表7を見ると、現在の国籍は、33名中27名が中国国籍で、4名が日本国籍である。婚姻状況は、33名中22名が「既婚」者である（表8）。表8「配偶関係」において、回答の選択肢に「既婚」「未婚」のほか「その他」を設けたのは、死別、離別、あるいは外国人同士が外国で行う婚姻手続き<sup>4)</sup>・離婚手続きの複雑さを勘案して本人にとって「既婚」とも「未婚」とも表現しがたい状況がある場合に、欠損値が発生することを回避しようとしたものである。今回、1名が「その他」を選んでいるが、「その他（）」とした回答欄の（）の部分が未記入であったため、その実際のところは不明である。今後、現在の配偶者についての質問を「配偶者あり（既婚）」「未婚」「死別・離別」「その他（）」のような選択肢形式とすべきか、今後の検討課題としたい。

表9は配偶関係と性別のクロス表である。これを見ると、「既婚」者22名のうち16名が女性であることがわかる。つまり、全体33名のうち16名が「既婚」女性である。表10では、「既婚」者（22名）のうち、その配偶者で最も多いのは朝鮮族（10名）となっており、「既婚」者（22名）のなかでは朝鮮族同士で結婚をしている場合が最も多いことがわかるが、「既婚」女性（16名）に限ってみれば、朝鮮族の夫を持つ者（6名）の次に多いのが、日本人の夫を持つ者（5名）で、漢族や韓国人の夫と結婚している場合もそれぞれ1名ずついる。

4) 外国人同士が日本で婚姻する場合、ふたつの方式（「日本方式の婚姻」と「本国方式の婚姻」）が存在する。「日本方式の婚姻」では、結婚をする場所である日本の法律に従って、届出人の住所地にある市区町村役所の戸籍課に婚姻届を出す。その場合、結婚する二人のそれぞれの「婚姻要件具備証明書」等を在日公館で入手して添付する。両当事者に、その本国の法律が定めている婚姻の成立要件（婚姻できる年齢に達していること、独身であることなど）が備わっていることが確認され、婚姻届が受理されれば日本法上の婚姻が正式に成立する。しかし、それが本国でも有効かどうかは国によって異なる。日本方式の婚姻届は、日本の市区町村役場において50年間保管される。いまひとつは、「本国方式の婚姻」である。これは日本にある本国の大使館又は領事館に、本国法の定める方法で婚姻届を出す。すでにこの方式で婚姻が成立した場合には、日本の戸籍届出窓口への届出は不要となる。しかし、国によっては、国外での婚姻届を受け付けていないところもある。法務省ホームページ（<http://www.moj.go.jp/MINJI/minji15.html>）、公益財団法人大阪府国際交流財団>大阪府外国人情報コーナー（<http://www.ofix.or.jp/life/jpn/marriage/01.html>）、中華人民共和国駐日本国大使館ホームページ（<http://www.china-embassy.or.jp/jpn/lsfu/gzrz/>）を参照（アクセス日：2015年12月29日）。



表7 現在の国籍 (Q 6-4)

	中国	日本	欠損値	総計
人数	27	4	2	33

表8 配偶関係 (Q 3-3)

	人数
既婚	22
未婚	8
その他	1
欠損値	2
合計	33

表9 配偶関係と性別 (Q 3-3) (Q 6-1)

	未婚	既婚	その他	欠損値	総計
男性	3	4	1		8
女性	5	16		2	23
欠損値		2			2
総計	8	22	1	2	33

表10 「既婚」者 (22名) の、性別と配偶者について (Q 3-3) (Q 6-1)

	朝鮮族	日本人	漢族	韓国人	欠損値	総計
男性	3				1	4
女性	6	5	1	1	3	16
欠損値	1				1	2
総計	10	5	1	1	5	22

表11は、在留資格の種類をあらわしており、「永住者」が33名中11名で最も多い。性別 (Q 6-1)、在留資格 (Q 6-7)、配偶関係 (Q 3-3) の回答を照らし合わせてみたところ、日本人と結婚している者は5名で、すべて女性であ

る。日本人（男性）と結婚している朝鮮族女性5名のうち、2名は日本国籍をすでに取得している。2名は「永住者」の在留資格を持つ。残りの1名は、在留資格を「永住者配偶」と回答している女性であるが、「日本人配偶者等」と間違えて回答したか、あるいは「永住者」と間違えて回答した可能性があり、欠損値として処理することも検討したが、この1名についてはいったんそのまま整理して保留とする。

日本人（男性）と結婚していて在留資格「永住者」を持つ2名について、その理由を考えると、在留資格の「日本人の配偶者」は、在留期間が5年、3年、1年又は6ヶ月間であり、期間が来ると更新手続きが必要である。「日本人の配偶者等」に対し、「永住者」は在留期間が無制限である<sup>5)</sup>かつ、もしも日本人配偶者と離婚又は死別した場合にも在留資格の変更申請を行う必要がない。そのため、「日本人の配偶者等」よりも「永住者」が選好され取得されたのではないか。

「日本国籍」を保持していると回答した4名のうち、日本人（男性）と結婚した朝鮮族女性2名を除くと、1名は夫が朝鮮族で、その夫の在留資格は「日本人の配偶者」であった。残る1名は夫が朝鮮族で、その夫の在留資格は「永住者」である。現在の国籍について質問で欠損値となっている4名のうち1名（女性）は、夫、子どもたち（2名、6歳と10歳）とも日本国籍を取得しており（Q3）、おそらく本人も含めて家族で日本国籍を取得したことが予想される。家族で日本国籍を取得するケースがある一方で、夫婦で国籍が異なる場合（夫婦の一方のみが日本国籍を取得する場合）がある。

表12を見ると、来日時の在留資格は、「留学」が19名、「就学」が11名である。つまり、来日当初は学生として過ごしていた者が33名中30名を占める。日本で教育を受けるための在留資格は、教育機関の形態により、大学等の高等教育機関で教育を受ける場合には「留学」、高等学校や、日本語学校を含む専修学校及び各種学校等において教育を受ける場合には「就学」として、在

---

5) 法務省入国管理局ホームページ (<http://www.immi-moj.go.jp/>) (アクセス日：2015年12月25日)

留資格が区分されていた。なお、平成22年7月1日から在留資格の「留学」と「就学」の区別はなくなり、現在はすべて「留学」に一本化されている<sup>6)</sup>

表11 在留資格 (Q6-7)

	人 数
永住者	11
人文・国際業務	7
日本国籍	4
留学	4
技術	2
家族滞在	1
永住者配偶	1
欠損値	3
合 計	33

表12 来日時の在留資格 (Q1-4)

	留 学	就 学	その他	総 計
人 数	19	11	3	33

ここまでの情報を整理すると、今回の回答者には、女性、年齢は30代（次いで40代）、「既婚」者、1990年代後半以降に留学生または就学生として来日し、修学を終えた後も日本に継続して暮らし、長期滞在（10～20年）となっている者が多く、現在の在留資格は「永住者」、次いで「人文・国際業務」が多い。

### 3. 移動先（日本）と送り出し地（ホームランド）をつなぐネットワーク

表13を見ると、来日前に日本に居住する「親族」がいた者は14名で、いなかった者は19名である。表14を見ると、来日前に日本に居住する「友人」が

6) 法務省入国管理局ホームページ（アクセス日：2015年12月25日）

いた者は、33名中24名を占めており、いなかった者9名よりもかなり多い。表15は、来日理由（なぜ日本を選択したか）の自由記述欄に書かれたものを整理したものである。「中国から一番近い外国だから（韓国は外国とっていない）」という記述の背景には、朝鮮族社会の日常のなかで、韓国への出国がありふれたものになって久しいことがある。「はじめに」でも触れたように、中韓国交樹立（1992年）以降、韓国は、朝鮮族の主たる移動先となってきた。在韓朝鮮族は約50万人に達しており、このことは、韓国社会にとっては韓国の総人口の1%を超える朝鮮族が韓国に住んでいることになり、ホームランド（中国国内の朝鮮族社会）にとっては全朝鮮族の4分の1が韓国に移動し暮らしていることになる<sup>7)</sup>

来日理由に見られる「友人が誘った」「妻が日本にいた」などの記述は、表13・表14と関連して、日本に暮らす朝鮮族と、彼らの故郷（ホームランド）とをつなぐネットワークの存在をあらわしていると思われる。また、「日本語しかできないから」「外国語が日本語（であったから）」「学んだ日本語を活かしたかったから」など、「日本語」が来日の動機と結びついている場合が見られる。

表13 来日前、日本に居住する親族（Q1-7）

	いた	いなかった	総計
人数	14	19	33

表14 来日前、日本に居住する朝鮮族の友人（Q1-8）

	いた	いなかった	総計
人数	24	9	33

7) 「朝鮮族1%時代」聯合ニュース (<http://www.yonhapnews.co.kr>)、2011年7月4日付（ハンゲル）。

表 15 来日理由（なぜ日本を選択したか）（Q 1-12）

中国から一番近い外国だから（韓国は外国とっていない）
進学のため
友人が誘ったので
大学で日本語専攻したから、本場の日本語をマスターするため。
外国語が日本語
妻が日本にいたから
親のすすめ
経済発展している近い国
近いから。他の国へは留学しようとしてもできなかったから
日本語しかできないため
学んだ日本語を活かしたかったから。日本への憧れ（中学、高校で日本語の先生の日本紹介のなかで）
大学で日本語を勉強したため
中学から日本語を勉強したため
①手続き上、自分で日本の学校の情報、先生の情報について調べることができたので。 ②専攻上、同じアジアである日本が参考になるかと思ったため。③生活上、同じアジアで中国と距離が近いから、より早く慣れると思ったので。
日本語を勉強したし、友人の紹介もあったので。
その当時、日本はアジアで一番の経済大国
①高い報酬、②将来発見の可能性があると判断
日本への憧れ
日本に知人がいたので
近いから
中国で大学卒業後、外国でもう少し勉強を続けたかったが、日本文化が好きだったため、こちら（日本）を選んだ
友だちが日本にいたため

朝鮮族学校における中等教育課程からの日本語学習が、渡航先として日本を選択する要因になっていることは、2001年調査でも確認された(権ほか2006, p. 187)。このように、朝鮮族の日本への移動者の多さは、ひとつには日本語学習者が多いことによる。本田によると、1990年当時、中国の日本語学習者の

3人に1人は朝鮮族であり、当時の朝鮮族総人口の4%に達する人口当たりの日本語学習率は他に類を見ない高さである。世界で日本語学習者が最も多いのは韓国の約91万人であるが、それでも人口当たりになると約1.8%に過ぎない(本田2012, p. 1, p. 20)。

朝鮮族に日本語学習者が多い理由は、歴史的には「満州国」期まで遡るが<sup>8)</sup> 文革および文革後の外国語教育再開時の事情とも関係が深い。朝鮮族の民族性へのこだわりは、伝統的にも現代にあっても、しばしば「教育熱」となってあらわれてきたと指摘する研究者は少なくない。延辺では、1910年代に既に「学校が多すぎる」状態であり、1949年4月には民族幹部養成を目的として、延吉に中国初の少数民族大学である延辺大学(設立当初の名称は東北朝鮮人民大学)が開校した。1952年には朝鮮族適齢児童の小学校就学率が92%に達し、1958年には延辺をはじめとする集住地区の朝鮮族に中学校教育がほぼ普及した。これらの達成は、中国各民族の中で最も早いものである(小川2001, p. 99; 鄭2000, pp. 227-228)。このように早くから発展してきた朝鮮族教育は、1957年の反右派闘争に始まり60年代の文化大革命に至る政治動乱期においては、「地方民族主義」を助長するものとして抑圧された。とりわけ、1968年の「階級隊伍整理運動」では、多くの教員を含む朝鮮族知識階級が「反逆者」「外国特務」といった汚名を着せられ、「打倒」の対象とされた。延辺だけでも、迫害により死亡した者は2,653名(うち1,483名が自殺)、暴行により心身に障害が残った者は2,983名、隔離・審査の対象にされるなど巻添えにされた10万名を超えるという(鄭2000, p. 234)。

1966年5月からは「外国語は西洋崇拝の担い手」として外国語科目が学校教育の中で廃止された。外国語教育が再導入され軌道に乗るには、1979年3月に、国家教育委員会(現教育部)によって「外国語教育強化についての意見」が全国に配布されるまで、10年以上を経なくてはならない(金2009, pp. 54-55)。その間、外国語教員をはじめ、外国語に関連する人材の育成も困難であり、文革後に民族学校が教育の正常化を図っていく際に、中等教育の現場で

---

8) その歴史的事由との今日的関連性についても本田(2012)の研究に詳しい。

は、外国語教育を再開しようにも、教鞭をとることのできる人材が不足していたことは想像に難くない。

筆者は日本滞在経験を持つ朝鮮族への生活史の聞き取り調査も行ってきたが、そこでもいくつかの事例が、外国語教育の再開期の朝鮮族学校で、外国語科目として日本語を学んだ経験を語っている。1960年生まれのAさんの場合は高校時代に、1971年生まれのBさんは中学時代に、日本語のできる年配の朝鮮族から日本語を学んだ(宮島2014, 75-76)。文革後に教育の正常化を図っていく過渡期において、日本語の能力を有していた年配者が日本語を教えることで、当面の外国語教師の不足を補ったと思われる。Bさんの通った中学・高校では、英語を学ぶ機会をもつことはできず、学ぶことができた外国語は日本語だけであった(宮島2014, p. 76)。朝鮮族の日本語学習者の多さは、このような学校教育も背景となって、日本による被支配の当事者として日本語能力を持つに至った世代から、日本による支配の終焉ののちに生まれた世代へと、その日本語能力を、個々人や個々の家庭のレベルのみならず民族集団のレベルで継承していった側面が指摘し得る。

このような共有が下地となって、大学入試でよい点数を得るために外国語として(英語ではなく)日本語を学ぶ、という発想が持たれてきた。1975年生まれのDさんが入学した中学校は、1学年に全8クラスがあり、そのうち2クラスが外国語として英語を学ぶクラスで、6クラスが日本語を学ぶクラスであった。どちらの外国語を学ぶかは生徒のほうで選択する。Dさんの場合は、Dさんの両親が、朝鮮語を話す朝鮮族にとって、英語よりも日本語のほうが学習しやすい外国語であって、大学入試の際にも(高得点を出しやすく)有利である、と言って、日本語を選択するように勧め、Dさんは両親の意見に従って日本語を選択した(Miyajima 2013, p. 92)。このことについては、小川(2001)が、延辺朝鮮族は入試において「語文」(「朝鮮語文」と「外国語」(「日本語」))で平均点よりも20~30点高い得点をたたき出すことによって全省文系合格率トップに躍り出ている、と実証的に論じている。

ただし、日本語学習が日本への移動の動機のひとつとなっていることが今回の調査結果にあらわれているのは、今回の回答者の多くが30代(次いで40代)

の年齢層であることと関係している。現在の朝鮮族学校では、基本的に外国語科目として英語教育が提供されているので、より若い年齢層への調査では異なる結果が得られるであろう。

#### 4. 日本のなかの朝鮮族社会

表16「アルバイト・仕事情報の入手方法」(複数選択可)は、2001年調査・2012年調査でも行った調査項目である。今回の調査で最も多いのが「朝鮮族の紹介」(回答数12/51)で、次に多いのが「日本語の情報誌」(9/51)であった。2001年調査においても、今回と同様に、最多が「朝鮮族の紹介」(回答数43/166)で、次に多いのが「日本語メディア」(回答数28/166)であった。ヒトが情報源となる場合は「朝鮮族の紹介」が最も多いことは、朝鮮族のネットワークが、来日の際に利用されているのみならず、移動後に移動先で生活を送る際にも利用されていると考えられる。各言語の「情報誌」が情報源となる場合に「日本語の情報誌」が最も利用されているのは、日本において、最も利用しやすく、量的に豊富であるのは、各言語の「情報誌」のなかでも「日本語の情報誌」である、ということではないか。

ただし、2012年調査では、最多が「日本語メディア」(回答数11/61)で、次が「日本人の紹介」(回答数7/61)であった。2012年調査の結果をまとめた際には、2012年調査に協力してくれた人たち(48名)には、日本での滞在年数が長く(日本滞在歴5~10年が14人、10~15年が19人)、「日本語メディア」や日本の「公共機関」(回答数8/61)を利用するなど、「日本に暮らす朝鮮族同士の紐帯のみならず、ホスト社会である日本社会との関係性を深めている人々が多かったと考えられる」とした(宮島2015, p.203)。今回の回答者は、2012年調査よりも、さらに日本滞在年数が長めとなっているが、「日本人の紹介」の回答はなかった。これらのアンケート調査は、無作為抽出による調査ではないので、得られた調査結果をそのまま一般化して考えることは困難である。その回その回の回答者たちについてはどのようなか、を示す結果であることに留意しつつ、検討の遡上に載せるほかない。従って、ここでは3回の調査結果の推移を示し、今後も検討を継続することとしたい。



表 16 アルバイト・仕事情報の入手方法（複数回答）（Q2-5）

	回答数
朝鮮族の紹介	12
日本語の情報誌	9
店頭の張り紙	6
インターネット	6
公共機関の紹介	5
学校の紹介	5
漢族の紹介	3
韓国人の紹介	2
中国語の情報誌	1
朝鮮語の情報誌	1
その他	1
総計	51

表 17「家庭でのコミュニケーション言語」も、2001年調査・2012年調査でも行った調査項目である。今回の調査において、最も多かったのは日本語・朝鮮語・中国語の「三ヶ国語すべて」の回答（10名）で、次いで多かったのが（家庭では）「朝鮮語」を使用するとの回答（9名）であった。その次に多いのは「日本語」（5名）であるが、そのうち3名は日本人（男性）と結婚している朝鮮族女性であった。「中国語・日本語」を選んだ1名は、漢族と結婚している朝鮮族女性であった。

2001年調査でも、最多が「三ヶ国語すべて」（120名の30%）で、次が「朝鮮語」（26%）であった。2012年調査では異なり、最多が「朝鮮語」（17/48）で、次が「三ヶ国語すべて」（12/48）であった。ただし、3回の調査とも、それぞれの言語で分けて積み上げて合算してみると、「朝鮮語」が最も話されているという結果となっている。今回の調査では「朝鮮語」は33名中27名にとって家庭で使用する言語となっている（表 18）。朝鮮語をベースにした三ヶ国語、朝鮮語のみ、あるいは朝鮮語をベースにした二ヶ国語で、家庭内のコミュニケ

ーションを図る場合が多いと考えられる。

表 17 家庭でのコミュニケーション言語 (Q 2-6)

	人 数
三ヶ国語すべて	10
朝鮮語	9
日本語	5
中国語・朝鮮語	4
朝鮮語・日本語	4
中国語・日本語	1
総 計	33

表 18 家庭でのコミュニケーション言語；言語別積み上げ (Q 2-6)

	朝鮮語	日本語	中国語
三ヶ国語すべて	10	10	10
朝鮮語	9		
日本語		5	
中国語・朝鮮語	4		4
朝鮮語・日本語	4	4	
中国語・日本語		1	1
総 計	27	20	15

表 19 では、日本にいる朝鮮族の友人の数を質問した。「10 人未満」が 14 名で最も多く、「10～19 人」が 8 名、「20～29 人」が 6 名、「30 人以上」が 4 名である。日本に朝鮮族の友人が 10 人以上いる者は 18 名であり、そのうち 10 名は日本に朝鮮族の友人が 20 人以上いる。表 20 では、日本における一番親しい友人を質問した。33 名中 25 名が「朝鮮族」と回答している。「その他」を選んだ者が 1 名おり、自由記述欄に「韓国人」と書かれていた。

表 19 日本にいる朝鮮族の友人 (Q 3-1)

	人 数
30人以上	4
20～29人	6
10～19人	8
10人未満	14
欠損値	1
総 計	33

表 20 一番親しい友人 (Q 3-2)

	人 数
朝鮮族	25
漢 族	2
日本人	1
その他	1
欠損値	4
総 計	33

### 5. 民族関係, および言語について

「民族・言語について」(Q4)は、「5. とても思う, 4. そう思う, 3. どちらとも言えない, 2. そう思わない, 1. 全くそう思わない」の5段階の選択肢を設けた。以下に回答数と平均値を示す。平均値が高い(=5に近い)ほど、「とても思う」が多く選ばれており、そのように思われている程度が高いことになる。

表21-1を見ると、まず、「朝鮮族同士は付き合いやすい」は平均値が4.35で、「漢族」「韓国人」「在日コリアン」「日本人」よりも付き合いやすさが高くあらわれている。このことは、表20において、日本における一番親しい友人として33名中25名が「朝鮮族」と回答していることとも重なる。その次に付

き合いやすさが高いのは「漢族」で、平均値 3.86 である。次いで「日本人」（平均値 3.51）、「韓国人」（平均値 3.2）、「在日コリアン」（平均値 3.1）と続くが、差は大きいものではない。

表 21-1 民族関係 (Q4)

朝鮮族同士は付き合いやすい	(回答数 31, 欠損値 2) 平均値 4.35
○漢族とは付き合いやすい	(回答数 30, 欠損値 3) 平均値 3.86
○韓国人とは付き合いやすい	(回答数 30, 欠損値 3) 平均値 3.2
○在日コリアンとは付き合いやすい	(回答数 30, 欠損値 3) 平均値 3.1
○日本人とは付き合いやすい	(回答数 29, 欠損値 4) 平均値 3.51

表 21-2 を見ると、「朝鮮族であることを誇りに思う」（平均値 4.38）、「朝鮮族には独自の文化がある」（平均値 4.43）は、「朝鮮族は中国の少数民族だと思ふ」（平均値 4.33）は、おおむね数値が高い。「朝鮮族であることを誇りに思う」（平均値 4.38）よりも、「中国人であることを誇りに思う」（平均値 4.06）はわずかに下がるが、4（＝「そう思う」）を超えている。「アジア人であることを誇りに思う」（平均値 3.96）はさらにわずかに低い。

表 21-2 民族関係 (Q4)

朝鮮族であることを誇りに思う	(回答数 31, 欠損値 2) 平均値 4.38
○中国人であることを誇りに思う	(回答数 30, 欠損値 3) 平均値 4.06
○アジア人であることを誇りに思う	(回答数 30, 欠損値 3) 平均値 3.96
○朝鮮族は中国の少数民族だと思ふ	(回答数 30, 欠損値 3) 平均値 4.33
○朝鮮族は朝鮮（韓）民族だと思ふ	(回答数 31, 欠損値 2) 平均値 3.67
○日本人とは中国人として付き合う方が良い	(回答数 29, 欠損値 4) 平均値 3.41
○日本社会では朝鮮族であることが有利に働く場合がある	(回答数 30, 欠損値 3) 平均値 3.76
○日本人との付き合いでは、朝鮮族であることを明かさない方が良い	(回答数 28, 欠損値 5) 平均値 2.35
○朝鮮族には独自の文化がある	(回答数 30, 欠損値 3) 平均値 4.43
○朝鮮族同士であれば出身地域が異なっても違和感がない	(回答数 30, 欠損値 3) 平均値 4.06
○韓国人は同民族だと思ふ	(回答数 30, 欠損値 3) 平均値 3.56
○在日コリアンは同民族だと思ふ	(回答数 28, 欠損値 5) 平均値 3.39

自身の朝鮮語・中国語・日本語の能力についての考えは、表 22 のとおりである。話す・聞く・読む・書く、の 4 つの技能のいずれにおいても、朝鮮語が最も高いと考えられている。次に中国語、日本語の順番となっている。

表 22 言語能力について自己評価 (Q4)

自分は朝鮮語が上手く	話せる (回答数 30, 欠損値 3) 平均値 4.63 聞ける (回答数 29, 欠損値 4) 平均値 4.68 読める (回答数 29, 欠損値 4) 平均値 4.72 書ける (回答数 29, 欠損値 4) 平均値 4.65
○自分は中国語が上手く	話せる (回答数 30, 欠損値 3) 平均値 4.1 聞ける (回答数 30, 欠損値 3) 平均値 4.26 読める (回答数 30, 欠損値 3) 平均値 4.3 書ける (回答数 30, 欠損値 3) 平均値 4.06
○自分は日本語が上手く	話せる (回答数 29, 欠損値 4) 平均値 3.86 聞ける (回答数 29, 欠損値 4) 平均値 3.93 読める (回答数 29, 欠損値 4) 平均値 4.03 書ける (回答数 29, 欠損値 4) 平均値 3.72

## 6. 今後予定

表 23 を見ると、今後の予定として、「引き続き日本に住む」という回答が 33 名中 21 名である。「日本国籍」者 4 名はすべて「引き続き日本に住む」を選択しており、在留資格が「永住者」11 名は 8 名が「引き続き日本に住む」を選択している。表 24 では「(日本に) 住み慣れたから」「日本での生活と仕事、友人関係が落ち着いている」という理由で、「引き続き日本に住む」として「永住者」がいる一方で、同じ「永住者」でも「まだわからない」を選択している者もいる。

在留資格「永住者」を持ち、「まだわからない」を選択している者は 2 名いる。この 2 名について、家族関係 (Q3) と、今後予定の回答理由 (Q5-6) を照らし合わせてみたところ、2 名とも「既婚」女性で、夫は朝鮮族である。1 名は、子どもが 2 人おり、家族 4 名全員が「永住者」の在留資格を持っており、

「子どもの進学（留学）によって変わる可能性が高い」ために今後予定は「まだわからない」としている。もう1名は、子どもが1名おり、夫の在留資格は「永住者」で、子どもの在留資格は「家族滞在」であり、今後予定は「わからない」と回答している。

滞在資格が「人文・国際業務」の者は7名だが、そのうち3名ずつが、それぞれ「引き続き日本に住む」と「まだわからない」とで回答している。7名のうち今後予定の回答理由（Q5-6）を記述してくれたのは2名で、いずれも「既婚」女性である。1名は、夫の在留資格は「就労」で、「日本が好き」だから「引き続き日本に住む」予定という。もう1名は、夫（朝鮮族）と子ども（1人、8歳）が韓国在住であり、「経済」や、子どもの「就学」などの事情によるので「まだわからない」としている。

表 23 今後予定と在留資格（Q5-4）（Q6-7）

	技術	留学	人文・国際業務	家族滞在	永住者	永住者家族	日本国籍	欠損値	総計
引き続き日本に住む		3	3	1	8	1	5		21
中国に帰国			1						1
まだ分からない	2	1	3		2				8
その他					1				1
欠損値								2	2
総計	2	4	7	1	11	1	5	2	33

表 24 今後予定の回答理由 (Q 5-6)

Q 5-5 の理由	Q 6-7 在留資格
生活便利のため	日本国籍
日本での生活と仕事、友人関係が落ち着いているから	永住者
日本人と結婚したため	永住者
中国より日本の生活になれた	日本国籍
夫が日本人のため、中国では仕事がないため	永住者配偶者
独身であり、状況が落ち着いていない。日本滞在の確率が高い。	技術
まずは学校の勉強を優先するつもりです	留学
日本で就職したいです、日本が好きです	留学
住み慣れたから	永住者
現段階では日本での就職を考えています	留学
住み慣れているし、子どもも大きくなっているの	永住者
経済、子女就学等の複合的理由で今後どこに行くか未定	人文・国際業務
日本が好きですから	人文・国際業務
娘の就職先次第	人文・国際業務
日本で家族もでき、生活に慣れているし、日本文化が好きで、自分なりに日本に馴染んでいると思う	家族滞在
子どもの進学（留学）によって変わる可能性が高い	永住者
①とても静かで住みやすい②主人も日本人のため引き続き日本に住む予定	日本国籍

## 7. むすびにかえて

本稿「はじめに」において、朝鮮族の移動と生活を明らかにする事例研究を通じて、①移動のありよう、移動後の（＝移動先での）暮らしのありよう、②移動者と移動元・移動先社会との関係、③移動者が日常生活のなかで抱えている諸問題、言い換えれば、移動者・移民の側が甘受している、国家や自治体が現状の制度のなかではカバーしきれない諸課題、などが明らかになるのではないか、という想定を述べた。さらに、事例を通じて、国際社会を構成する基本単位とされてきた国家を跨いで生きることの難しさが改めて浮かび上がり、そ

れと同時に、そうした困難を乗り越えて日常を生きる移動者・移民の工夫が明らかになるであろう、との考えを述べた。ここでは、そのような問題意識に引き付けながら、本稿で得られた知見を提示し、論をまとめる。

今回の回答者には、日本滞在年数が10年から20年未満の者が33名中22名と、日本に長く住んでいる者が多いことと関連して、在留資格に「永住者」を持つ者が33名中11名で最多であった。そのうち2名は、日本人（男性）と結婚した朝鮮族女性であるが、「日本人の配偶者等」の在留資格ではなく、「永住者」の在留資格を有している。その理由としては、定められた在留期間が来ると更新手続きが必要な「日本人の配偶者等」に対し、「永住者」は在留期間が無制限であり、かつ、もしも日本人配偶者と離婚又は死別した場合にも在留資格の変更申請を行う必要がないことが考えられる。また、中国国籍を維持する何らかの理由やメリットがあるのかもしれない。

また、「永住者」の在留資格を有していても、子どもの就学等、将来に起こる現状では未定の家族事情によっては、日本を離れるという選択肢を持つことを示す回答があった。筆者は、以前、日本の「永住者」の在留資格を持ちながら、現在は中国で暮らしている朝鮮族女性（Pさん）に生活史の聞き取り調査を行ったことがある（宮島2015, p.205）。在留資格の「永住者」は、日本を出国した場合、再入国許可の有効期限内に日本へ再入国する必要がある、有効期限を過ぎても継続して日本に長期不在であると失効してしまうが<sup>9)</sup> Pさんの場合は、「何年かに一度、日本に行く用事はあるだろうから問題ない」との考えであった。Pさんは、10年以上の日本滞在歴を持ち、家族全員（本人、夫・朝鮮族、こども）で「永住者」資格を取得のちに日本を離れ、現在は中国で暮らしている。できれば子ども的高校卒業までは中国に住み続けたい気持ちはあるが（Pさんの子どもは日本の小学校に入学した当初、日本語が十分でないために学校生活で苦勞し、Pさんもそのサポートに骨を折った経験が背景にあると思われる）、今後の予定は未定である。日本企業の社員である夫が日本の

---

9) 日本を出国した場合、再入国許可の有効期限内に日本へ再入国する必要がある。再入国許可の有効期限は2012年7月9日以降、3年から5年に伸長された。



社会保険に、Pさんは中国の社会保険に加入しているので、日中のいずれで老後を送ることになっても、夫婦のどちらかが、どちらかの国で年金が受け取れるはずだと考えていた。

また、2名の女性が日本国籍を取得し、その夫は中国国籍を保持しており、夫婦で国籍が異なる場合（夫婦の一方のみが日本国籍を取得する場合）が見られた。このような在留資格、国籍取得のあり方は、そこに、国家を跨いで生きる移動者・移民の工夫が見い出される可能性があるが、どのような事情ないし考えにより、現在の国籍ないし在留資格を持つに至ったのか、という個別的で具体的な内容は、アンケート調査（量的調査）に基づく本稿では明らかにすることができない。今後、引き続き、生活史の聞き取り調査のような質的調査を行って明らかにしていきたい。

※本稿は、2013～2015年度科研費基盤研究（B）「グローバル時代の人の移動の自由と管理－社会保障制度を中心に－」（研究代表・山形大学・高橋和）に分担研究者として参加させていただいた成果の一部である。

## 参考文献

- 小川佳万，2001年、『社会主義中国における少数民族教育』東信堂。
- 金紅梅，2009年，「中国朝鮮族学校における外国語教育の展開について」『政策科学』16（2），立命館大学。
- 金明姫・浅野慎一，2012年，「韓国における中国朝鮮族の生活と社会意識」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』6（1）。
- 権香淑・宮島美花・谷川雄一郎・李東哲，2006年，「在日本中国朝鮮族実態調査に関する報告」中国朝鮮族研究会編『朝鮮族のグローバルな移動と国際ネットワーク』アジア経済文化研究所。
- 高橋和，2014年，「人の国際移動をめぐる研究の動向－ヨーロッパにおける人の移動の自由と管理を中心に－」『山形大学法政論叢』第58・59号。
- 鄭雅英，2000年，『中国朝鮮族の民族関係』アジア政経学会，2000年。
- 宮島美花，2014年，「中国朝鮮族の移動と中国の社会保障」『北東アジア研究』20。

宮島美花, 2015年, 「移動を説明する諸理論と, 中国朝鮮族の移動・生活－日本在住の朝鮮族の事例から－」『香川大学経済論叢』第87巻, 第3・4号。

本田弘之, 2012年, 『文革から「改革開放」期における中国朝鮮族の日本語教育の研究』ひつじ書房。

Miyajima, Mika., 2013, Transmigratory Movement and Life-world of the Korean-Chinese in Northeast Asia : based on Life Histories of Chaoxianzu / Chosunjok Women, Frontier of North East Asian Studies, vol. 12.

<添付資料>

### 일본에 거주하는 중국조선족의 생활실태와 의식에 관한 조사

안녕하십니까? 이 앙케트용지는 일본에 거주하고 있는 중국조선족의 생활실태와 의식에 관한 앙케이트 설문지입니다.

본 연구는 일본에 거주하는 중국조선족들의 현주소를 파악해 그 이동과 정착과정을 해명하는데 목적을 두고 있습니다. 앙케이트에 응해주신 내용은 학술연구목적을 위한 통계자료로서만 처리됩니다. 또한 개인정보는 일본의 개인정보보호법에 의하여 보호 받을 것이며 수량화한 데이터로만 사용되므로 익명으로 처리됨을 덧붙여 말씀드립니다. 바쁘시겠지만 조금만 시간을 내주셔서 질문에 응해주시면 대단히 감사하겠습니다.

앙케이트의 기입방법과 주의사항은 다음과 같습니다.

1. 모든 회답란에 반드시 본인이 직접 기입해 주십시오.
2. 응답은 해당되는 번호나 내용에 밑줄을 그어서 표시하고, (            )와 부분에는 가능하면 상세하게 기입해 주십시오.
3. 앙케이트는 일본어로 작성되어 있으나 의 자유기술 부분은 조선어로 기입하셔도 됩니다.

[문의] 宮島美花 (香川大学経済学部)  
E-mail: mika@ec.kagawa-u.ac.jp

--	--	--

## Q1. 来日についてお伺いします。

- 1) 初めて来日した時期：西暦( )年
- 2) 日本での通算滞在年月：( )年( )か月
- 3) 来日直前の居住地：( )
- 4) 来日時の在留資格  
1 留学 2 就学 3 研修 4 家族滞在 5 その他( )
- 5) 来日の経緯  
1 友人・知人の紹介 2 業者の斡旋 3 会社の招聘 4 親族訪問 5 その他( )
- 6) 来日した際に最も大変だったこと  
1 言葉 2 進学 3 住宅 4 生活習慣 5 その他( )
- 7) 来日前、日本に居住する親族：1 いた( )名 2 いなかった
- 8) 来日前、日本に居住する朝鮮族の友人：1 いた( )名 2 いなかった
- 9) 来日時にかかった費用：( )万円(人民元)と( )万円(日本円)
- 10) 9)の負担方法：1 本人の貯金 2 親族 3 借金 4 その他( )
- 11) 来日の目的  
1 出稼ぎ 2 勉強・研究 3 ビジネス 4 就職 5 外国へのあこがれ 6 その他( )
- 12) 1.1)の回答理由(何故、日本を選択されましたか?)

## Q2. 日常生活についてお伺いします。

- 1) 現在のお住まい：( ) (県・都・府・道)、( ) (市・区) ( ) (町)
- 2) 1)の居住歴：( )年( )か月
- 3) 現在のお住まいを探した方法  
1 日本人不動産屋 2 中国人(漢族)不動産屋 3 朝鮮族不動産屋 4 家族・親戚が住んでいた 5 漢族の友人・知人の紹介  
6 朝鮮族の友人・知人の紹介 7 日本人の友人・知人の紹介 8 会社の社宅・借り上げ 9 韓国語の情報誌  
10 中国語の情報誌 11 日本語の情報誌 12 インターネット(サイト名： )  
13 その他( )
- 4) お住いの形態  
1 持ち家(一戸建て) 2 持ち家(マンション) 3 民間賃貸マンション 4 公園賃貸マンション  
5 民間アパート 6 会社の寮・社宅 7 公営住宅(都営など) 8 大学の寮 9 その他( )
- 5) アルバイト・仕事情報の入手方法(複数回答可)  
1 日本人の紹介 2 朝鮮族の紹介 3 漢族の紹介 4 韓国人の紹介 5 日本語の情報誌  
6 中国語の情報誌 7 朝鮮語の情報誌 8 店頭の張り紙 9 外国人向けボランティア団体の紹介  
10 公共機関の紹介 11 学校の紹介 12 インターネット(サイト名： )  
13 その他( )
- 6) 家庭でのコミュニケーション言語  
1 中国語 2 朝鮮語 3 日本語 4 中国語・朝鮮語 5 中国語・日本語 6 朝鮮語・日本語  
7 ミニ言語すべて 8 その他( )
- 7) 日本以外に居住する家族・親族とのコミュニケーションで最も活用しているツール  
1 国際電話 2 Eメール 3 カカオトーク 4 微信 5 LINE 6 その他( )
- 8) 余暇の過ごし方  
1 自宅で過ごす 2 家族で外出する 3 友人と過ごす 4 趣味を楽しむ(内容： )  
5 その他( )
- 9) 毎月の暮らしに必要な生活費：( )万円
- 10) 車両などの所有状況(該当番号すべてに○)：1 自転車 2 オートバイ 3 自動車 4 なし

Q3. 友人・家族についてお伺いします。

- 1) 日本にいる朝鮮族の友人：1 30人以上 2 20人～29人 3 10人～19人 4 10人未満 5 いない  
 2) 一番親しい友人：1 朝鮮族 2 漢族 3 在日コリアン 4 日本人 5 その他 ( )  
 3) 配偶関係：1 未婚 2 既婚(配偶者：朝鮮族・漢族・日本人・韓国人) 3 その他 ( )  
 4) 朝鮮族以外の人と結婚した家族  
 1 日本人と結婚を(した・予定する)家族がいる 2 韓国人と結婚を(した・予定する)家族がいる  
 3 漢族と結婚を(した・予定する)家族がいる 4 在日コリアンと結婚を(した・予定する)家族がいる  
 5 その他の外国人と結婚を(した・予定する)家族がいる  
 6 そのような家族はいない 7 その他 ( )  
 5) 家族構成(同居家族：現在同居している家族。分散家族：同居していない家族。本人を基準に上位・下位世代も記入)

同居家族	年齢	在留資格	国籍	分散家族	年齢	居住国	国籍

6) 子供の教育：(子供がいないか、または学齢期ではない方は左表のみご記入ください)

教育内容	理想とする教育	日本にある教育機関	現在受けている教育	今後受けさせたい教育
朝鮮族としての教育	1	公立学校	1	1
中国人としての教育	2	国立学校	2	2
日本人と同じ教育	3	私立学校	3	3
多文化・多言語教育	4	公立学校と塾(語学など)	4	4
エリート教育	5	中国語の学校	5	5
国際教育	6	朝鮮学校・韓国学校	6	6
その他	( )	インターナショナルスクール	7	7
		その他	( )	( )

Q4. 民族・言語についてお伺いします。

(一番、あなたの考えに近い数字に○：5.とても思う、4.そう思う、3.どちらとも言えない、2.そう思わない、1.全くそう思わない)

1 朝鮮族同士は付き合いやすい	5 4 3 2 1
2 漢族とは付き合いやすい	5 4 3 2 1
3 韓国人とは付き合いやすい	5 4 3 2 1
4 在日コリアンとは付き合いやすい	5 4 3 2 1
5 日本人とは付き合いやすい	5 4 3 2 1

1 朝鮮族には独自の文化がある	5 4 3 2 1
2 朝鮮族同士であれば出身地域が異なっても違和感がない	5 4 3 2 1
3 韓国人は同民族だと思ふ	5 4 3 2 1
4 在日コリアンは同民族だと思ふ	5 4 3 2 1

1 朝鮮族であることを誇りに思ふ	5 4 3 2 1
2 中国人であることを誇りに思ふ	5 4 3 2 1
3 アジア人であることを誇りに思ふ	5 4 3 2 1
4 朝鮮族は中国の少数民族だと思ふ	5 4 3 2 1
5 朝鮮族は朝鮮(韓)民族だと思ふ	5 4 3 2 1

自分は朝鮮語が上手<	話せる	5 4 3 2 1
聞ける	5 4 3 2 1	
読める	5 4 3 2 1	
書ける	5 4 3 2 1	

1 日本人とは中国人として付き合い方が良い	5 4 3 2 1
2 日本社会では朝鮮族であることが有利に働く場合がある	5 4 3 2 1
3 日本人との付き合いでは、朝鮮族であることを明かさない方が良い	5 4 3 2 1

自分は中国語が上手<	話せる	5 4 3 2 1
聞ける	5 4 3 2 1	
読める	5 4 3 2 1	
書ける	5 4 3 2 1	

  

自分は日本語が上手<	話せる	5 4 3 2 1
聞ける	5 4 3 2 1	
読める	5 4 3 2 1	
書ける	5 4 3 2 1	

Q5. 関心事及び将来について

1) 一番知りたい情報

- 1 就職・アルバイト情報    2 進学関係情報    3 住宅情報    4 市場動向    5 中国社会の情報
- 6 東北アジアの情勢    7 その他 ( )

2) 1)の入手方法

- 1 朝鮮族の友人・知人・親戚    2 漢族    3 韓国人    4 在日コリアン    5 日本人
- 6 所属先の相談窓口    7 その他 ( )

3) 在留資格の選択:

- A) 永住資格    1 すでに取得した    2 取得するつもり又は申請中    3 取得するつもりはない
- B) 日本国籍    1 すでに取得した    2 取得するつもり又は申請中    3 取得するつもりはない

4) 今後の予定

- 1 引続き日本に住む    2 中国に帰国する    3 まだ分からない    4 外国に移住する (国名: )
- 5 その他 ( )

5) 4)の回答理由 (ご自由にお書き下さい)

Q6. ご自身についてお聞きます。

- 1) 性別: 1 男性    2 女性
- 2) 出生地: 1 吉林省    2 遼寧省    3 黒龍江省    4 その他 ( )
- 3) 年齢: 西暦 ( ) 年生まれ ( ) 歳
- 4) 国籍: ( )
- 5) 宗教: 1 ある (宗教名: )    2 ない
- 6) 両親・祖父母の出生地 (中国・朝鮮半島の地域名を記入) と使用可能な言語 (1 朝鮮語、2 中国語、3 日本語)

	出生地	使用可能な言語		出生地	使用可能な言語
父	( )	1 2 3	母	( )	1 2 3
祖父	( )	1 2 3	祖父	( )	1 2 3
祖母	( )	1 2 3	祖母	( )	1 2 3

7) 現在の在留資格など

- 1 投資・経営    2 研究    3 技術    4 短期滞在    5 超過滞在    6 留学    7 研修    8 人文・国際業務
- 9 家族滞在    10 永住者    11 配偶者    12 永住者配偶    13 定住者    14 日本国籍    15 その他 ( )

8) 中国での最終学歴

- 1 初級中学    2 高級中学    3 中等専門学校    4 技術労働者学校    5 農業 職業中学
- 6 短期職業大学    7 高等専科・大学専科    8 大学本科    9 大学院以上    10 その他 ( )

9) 民族教育歴 (高校まで)

- 1 完全な朝鮮語の教育    2 中国語の教育と朝鮮語の教育    3 完全な中国語の教育    4 その他 ( )

10) 中国での職業

- 1 管理職    2 専門職    3 事務系    4 工場労働    5 サービス・販売    6 学生    7 自営業
- 8 農業    9 主婦    10 無職    11 その他 ( )

ご協力ありがとうございました